【学力向上フロンティアスクール中間報告書】（小学校用）

都道府県名	高　知　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	高知市立鴨田小学校								
学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	5	5	5	3	33	53
児童数	176	173	168	183	180	177	12	1069	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

学びを中心とした授業の創造

２．研究内容と方法

（１）実施学年・教科

・１～６年生・算数
児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。
・３，４年生・国語
これまでの研究成果と児童に対する実態調査の結果から，言語に対する理解を深める必要があると考えたため。

（２）年次ごとの計画

平成14年度	○テーマ 「質の高い，個性ある授業の創造」 ○仮説 モデル校（浜之郷小）の実践に学び「学び上手」の子どもを育てる授業をめざすことで，主体的に学び，問題を解決する資質や能力を育てることができるであろう。 ○研究内容・方法 ・全員が公開授業 ・参観日を学習参加日に変えていく ・教科担任制の推進 ・習熟度指導を視野に入れた少人数指導（算数科） ・モデル校への視察研修 ・モデル校からの講師招聘

平成15年度	○テーマ 「学びを主体とした授業の創造」 ○仮説 学びを中心とする授業とは，モノや教材と対話し，仲間や教師と対話し，自分自身と対話する学び（活動的で協同的で反省的な学び）を授業の中心にすえることである。 現代の急速に変化する社会の中で，これから生きていくために子どもたちに必要となるのは、「基礎学力の育成」と「生きる力」である。基礎学力を育成し，「生きる力」を育むためには，自ら学び続ける姿勢が求められる。学びを中心とした授業の創造により，本校児童に自ら学び続ける姿勢を育むことができるのではないだろうか。 ○研究内容・方法 ・授業公開とその検討 全校の研究テーマに基づき，各個人が研究テーマを設定する。そして，個人テーマに基づいた「授業公開とその検討」を全教員が一年間に１回以上行い，その中の８回を全校校内研修とする。 授業後の検討では，授業を撮影したビデオを視聴し「教材の選択と，教師の関わり方がどう子どもの学びを触発し，聴きあい学びあう関係が育まれているか」を中心として検討を行う。 ・ＴＴ授業，学級分割授業，習熟度別授業の導入 ３，４年生の国語科，１～６年生の算数科において，「基礎学力の定着」「学習に対する意欲の向上」「個に応じた多様な教育の実施」をねらいとし，ＴＴ授業，学級分割授業，習熟度別授業を導入する。 ・教科担任制の推進 ・参観日から学習参加日への転換 ・モデル校，先進校への視察研修 ・モデル校，先進校からの講師招聘

平成１６年度

平成１５年度の反省をもとに，若干変更する予定。

（３）研究推進体制

「学びを中心とした授業の創造」では，神奈川県の浜之郷小学校をモデルとしている。浜之郷小学校では，校務分掌を一役一人制にし，複数で役を受ける時よりも当事者としての意識や責任感を高めた組織としている。この制度は，会議を大幅に削減することができるため，子ども達と接する時間や授業を創造するための時間を生み出すことができる。

本校でも，その一役一人制をもとに研究組織を作った。本校の実態に合わせた組織にするため，毎年若干の変更を加えている。

平成１５年度の研究組織は，以下のような組織である。

研究組織		
研究部	学力向上フロンティア研究部	教科担任制
		基礎学力（家庭学習）
	人権・総合学習研究部	人権教育
		総合学習
		いのちの学習(健康・生活リズム)
	教育相談研究部	治すカウンセリング
		育てるカウンセリング
	授業研究部	授業公開
		学習参加
	特別支援研究部	
	全校音楽	
	全校体育	
	朝の読書	

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

・授業を中心とした仕事を公開し，観察，批判しあい，創造しあうという「同僚性」の構築ができつつある。

・ＴＴ指導や少人数指導により，意欲的に学習する児童が増え，基礎基本の定着を図ることができた。学力把握のために行ったテストワークの平均点やＣＲＴの結果も向上した。

CRT算数（４年生）

	算数への関心・意欲・態度		数学的な考え方		数量や図形についての表現・処理		数量や図形についての知識・理解		全観点評定	
年度	H.14	H.15	H.14	H.15	H.14	H.15	H.14	H.15	H.14	H.15
学年	３年生	４年生	３年生	４年生	３年生	４年生	３年生	４年生	３年生	４年生
A（人）	102	155	45	104	154	152	96	143	85	132
B（人）	59	19	67	42	20	21	43	28	64	41
C（人）	16	9	65	37	3	10	38	12	28	10

２．今後の課題

・全体的には，基礎学力は定着してきたが，低学年の頃から学力の差が大きく，高学年になるにつれてその差がますます広がる傾向がある。その原因の１つに，十分な学習言語が身についていないということがあると考えられる。高学年になるまでに，いかに学習言語を身につけさせるかを研究していきたい。

・教科担任と学級担任との打ち合わせの時間の確保が難しい。単元指導計画や評価方法を改善し，より効果的な指導方法を検討していきたい。

・発展的・補充的な学習内容について，授業の中での扱いや練習用のプリントをさらに研究していく必要がある。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

・４月下旬に，２～６年がＣＲＴ（国語，算数）を実施。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての成果の普及

１１月２８日に筑波大学附属小学校から講師を招聘し，学力向上フロンティア研究会として高知市内の小学校に案内をした。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　　１５年度からの新規校　　■１４年度からの継続校

【学校規模】　　６学級以下　　７～１２学級
１３～１８学級　　１９～２４学級
■２５学級以上

【指導体制】　　■少人数指導　　■Ｔ．Ｔによる指導
■一部教科担任制　　その他

【研究教科】　　■国語　　社会　　■算数　　理科
生活　　音楽　　図画工作　　家庭
体育　　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　　■有　　無